

事業系ごみ資源化推進ファンドについて

令和5年11月
福岡市環境局

事業系ごみ資源化推進ファンドについて

■ 設立の経緯

【事業系ごみの資源化推進検討委員会の答申(平成22年12月)】

- 事業系ごみの処理は事業者の自己処理責任が原則だが、すべてを事業者の自主性に委ねるだけでは資源化は進まない。そのため、新たな資源化ルートを構築するなどの「資源循環策」、処分経費の減免制度の廃止などの「ごみ処理手数料」、資源化に取り組む排出事業者や資源化事業者への「行政支援策」の3施策を事業系ごみの資源化促進システムとして、一体的に実施する環境づくりを行うべき。

「資源循環策」

- 厨芥類の資源化
 - ・ 飼料化・肥料化施設の市内誘致
 - ・ バイオマス資源への活用検討
- 機密書類の資源化
 - ・ 優良な資源化事業者の情報提供
- 小規模事業者が排出する古紙の資源化
 - ・ 小規模事業者の身近な場所に回収拠点を確保
 - ・ 排出事業者の資源化への取組みに対するインセンティブ
- 紙おむつの資源化

「行政支援策」

- 事業者間で情報交換ができるようなウェブ情報サイトの開設
- 排出事業者の資源化に向けた取組みに対するインセンティブ
- 事業系ごみの資源化に向けた事業化や実証研究への支援



- 減免制度の廃止は、厳しい経済状況の中、事業者に負担を求めることになるため、**ファンドを創設し**、資源化にかかわる事業者が意欲をもって資源化に取り組める仕組みづくりに活用することが重要。

■ 事業系ごみの資源化推進ファンド

【概要】

- **設置期間**：平成23年10月～令和7年度末
- **積み立て**：20億円（減免廃止による手数料収入増の一部、寄付、運用益）

※H30年度で20億円積立、その後は寄付と運用益のみ積立

事業系ごみ資源化推進ファンドについて

■ ファンドを活用した主な取り組み

「資源循環策」

- 厨芥類の資源化
 - ・ 飼料化施設増設への補助（平成26年度）
 - ・ メタン化施設への補助（令和5年度（予定））
- 機密書類の資源化
 - ・ 福岡市事業系ごみ資源化情報発信サイトの開設（平成24年度）
- 小規模事業者が排出する古紙の資源化
 - ・ 事業系ごみに古紙の分別区分を追加（令和2年度）
 - ・ 古紙の圧縮梱包施設への補助（平成30年度、令和2年度）
 - ・ 排出事業者に対するインセンティブ
（焼却処理14円/kg ⇒ 古紙の圧縮梱包施設7円/kg）
- 紙おむつの資源化
 - ・ 福岡大学及びトータルケア・システム(株)が行う実証研究への補助
（平成24年度～27年度）

「行政支援策」

- 事業者間で情報交換ができるようなウェブ情報サイトの開設
 - ・ 福岡市事業系ごみ資源化情報発信サイトの開設（平成24年度）
- 排出事業者の資源化に向けた取り組みに対するインセンティブ
 - ・ 古紙分別保管場所等整備支援補助金（令和2～3年度）、古紙分別収集車両購入支援補助金（令和2年度） 等
- 事業系ごみの資源化に向けた事業化や実証研究への支援
 - ・ 実証研究 4件
 - ・ 社会システム研究 8件

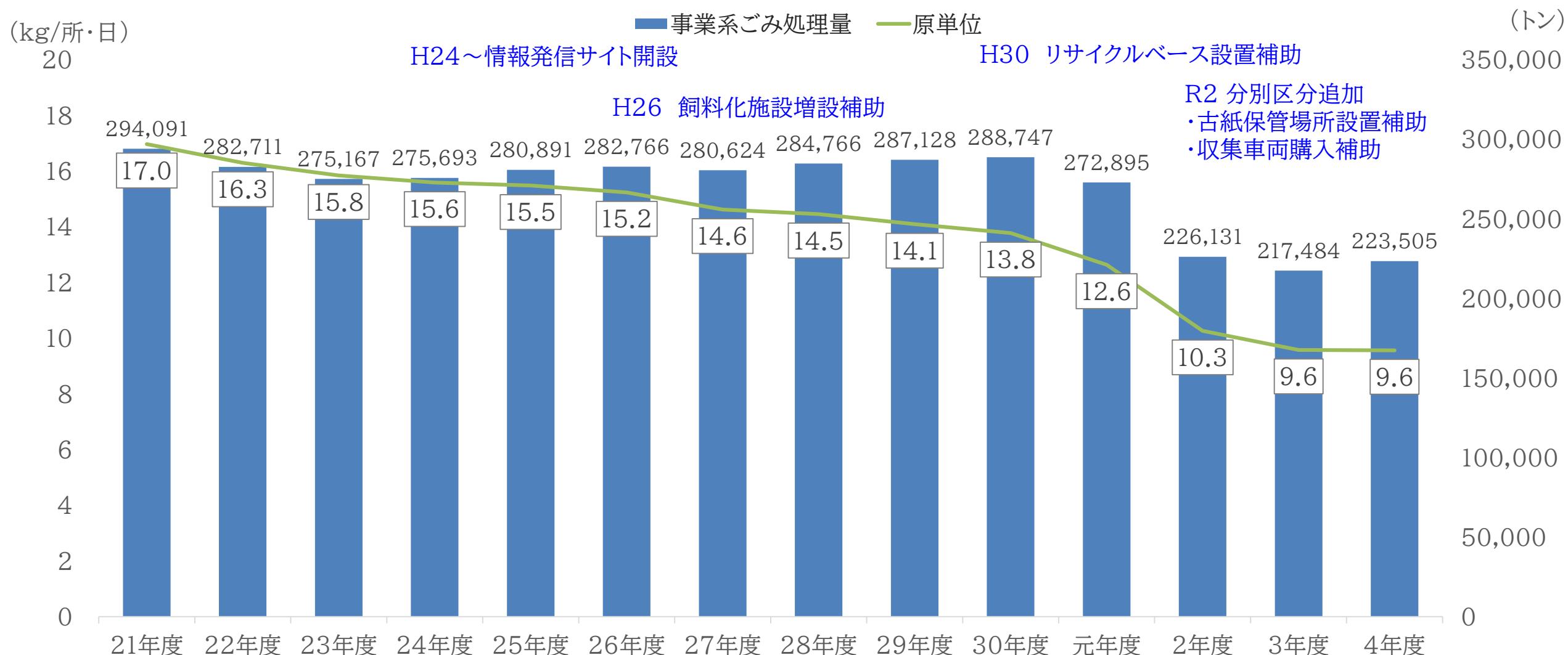
【執行状況】

（単位：千円）

事業名	執行額累計(H23～R4)
1 事業系ごみの減量・リサイクルに関する普及啓発事業	263,179
事業所ごみ減量再資源化指導	48,413
事業系ごみ資源回収推進事業	164,135
事業系食品廃棄物3R推進事業(事業系ごみ資源回収推進事業より分離)	15,699
事業系古紙資源化推進事業【R4年度終了】	34,537
エコアクション21取得支援事業【H26年度終了】	395
2 事業系ごみの減量・リサイクルに取り組む事業者への支援事業	406,948
事業系ごみ資源化技術実証研究等支援事業	79,432
事業系一般廃棄物資源化施設の整備支援	293,018
古紙分別保管場所等整備支援事業【R3年度終了】	5,989
古紙分別収集車両購入支援事業【R2年度終了】	28,509
3 その他必要と認める事業	234,879
事業系ごみの資源化調査	54,520
事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会	5,327
自己搬入ごみ事前受付システムの再構築【R3年度終了】	133,695
循環型ごみ処理システムの構築【R3年度終了】	3,222
工場での古紙回収資源化【R1年度終了】	24,386
事業系紙おむつ回収リサイクル実証実験【H25年度終了】	5,125
事業系ごみ資源化事業者の状況調査【H24年度終了】	4,665
新たな分散型エネルギー活用に向けた研究【H24年度終了】	3,938
計	905,006

事業系ごみ資源化推進ファンドについて

■ 事業系ごみ処理量及び1事業所当たりの原単位の推移



■ ファンドの更なる活用に向けた今後の方向性について

- ・ 実証研究等支援事業については、民間事業者の研究開発等の取組みに関して情報収集を行うとともに、広報を強化する。
- ・ 厨芥類の資源化については、令和6年春に稼働開始予定である食品廃棄物の資源化(メタン化)施設への誘導策について検討を進めるとともに、紙おむつの資源化については、処理費用が高額であることや施設の立地場所などの要因により資源化に至っていないため、今後も施設誘致や資源化技術に関する情報収集を行い、資源化に向けた検討を進めていく。